

[もくそうにちれんしょうにんざそう]

木造日蓮聖人坐像

日住上人による造立

この坐像は、寛文6(1666)年、日住上人が幕府をはじめ諸方に勧進し、自らの42歳の厄を払うために造立されたものである。

はじめ千葉県市川市中山にある中山法華経寺の常唱堂に安置されていたが、昭和38(1963)年、前記法華経寺の北海道別院である豊葦山妙心寺(札幌市中央区南11条西9丁目)の拡充に当たり遷座した。

本格的な造仏法

像の胎内には銘文がしるされ、これによって造立の由緒、年代等について知ることができる。彩色は新しいが、本格的な造像法によって造られており、力感にあふれ、しかも数多く残る日蓮聖人像のなかでも、大型であり貴重なものである。

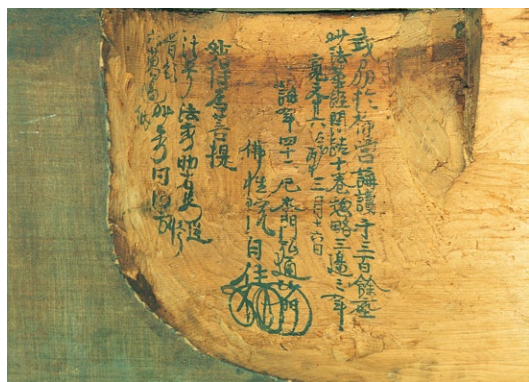
この像の頭部は、耳の後ろで前後二材を合わせ、体部に差し込む「差し首」となっている。体部は、前後二材及び別材をはぎ寄せた両肩から先の腕部よりなっている。また、膝部は横一材を使用し、さらに裳先には別材を補っている。

厄除けの記録をもつ仏像は、その例が少なく、日蓮上人の単像彫刻のなかでも、本格的な造像法による数少ないものである。

なお、この像は豊葦山妙心寺本堂の正面、須弥壇上中央に安置されている。

概要

- 木彫、寄木造、彩色、材質絵
- 玉眼、体軀に差し首
- 像高……………87cm
- 像底部左右最大幅……………94cm
- 像底部奥行最大幅……………65.5cm
- 頭部(頭頂から顎まで)……………28.5cm



像の胎内の銘文

- 制作年代: 寛文6(1666)年
- 指定年月日: 昭和56(1981)年7月21日
- 所在地: 札幌市中央区南11条西9丁目2-10
豊葦山妙心寺
- お問い合わせ: 豊葦山妙心寺 ☎ 511-7634
- 観覧形態: 観覧可
- 観覧時間: 9時00分～16時30分
- アクセス: 市電「中島公園通」
じょうてつバス「南11西11」

